ダイサクセン大作戦

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 女１ 小学生

 女２ 小学生

 男１ トナカイ

 男２ サンタクロース

 ？？ 怪盗エックス

【１】

 大きな屋敷の広間。テーブルがひとつ。

 「うわぁー」という叫び声がして、女１と女２が登場。

女１ ああ、痛かった。お尻打っちゃった

女２ 危なかったね

女１ やっぱり煙突から入るのなんかやめればよかった

女２ でも楽しかったよ

女１ そう？　あ、プレゼント大丈夫？

女２ うん、大丈夫

女１ だったらいいけど。ちゃんと玄関から入ればよかったね

女２ え、ダメだよ。煙突から入らないと

女１ どうして？

女２ プレゼント渡しに来たんだよ。こういう時は煙突から入るって決まってるの

女１ 私の家は煙突ないよ

女２ ダメだよ、煙突作らなきゃ

女１ そんなこと言われても

女２ それに、煙突から入ろうって言った時は女１だって乗り気だったじゃない

女１ だって玄関は鍵かかってるし、呼んでも誰も出て来ないし

女２ うん、だからいいんだよ

女１ 勝手に入って怒られないかな？

女２ 怒られるかな？

女１ 分かんない。誰もいないみたいだし

女２ 寝てるんだよ、きっと

女１ 寝てるの？　お昼だよ

女２ 本で読んだことあるよ。サンタさんは、クリスマス以外はずっと寝てるんだって

女１ そうなんだ。じゃあ今日の夜に起きるのかな

女２ きっとそうだよ。それまでに、サンタさんの枕元にプレゼントを置いて来なきゃ

女１ うん。じゃあまずサンタさんの部屋を探そう

 突然、鍋やら何やらで武装した男１登場。

男１ 出たな、怪盗エックス！

女１ え？

男１ プレゼントは渡さないぞ

女２ え、何？

 男１、女１と女２に襲いかかる。

男１ さあ、さっさと出て行け

女２ ご、ごめんなさい

女１ ちょっと待ってよ、何なの一体？

男１ とぼけても無駄だぞ。まさか煙突から入ってくるとは思わなかった

女１ ごめんなさい、最初は玄関から入ろうとしたんだけど

女２ 煙突から入ろうって女１が

女１ あ、ひどい。女２が言い出したんでしょ

女２ 女１だっていいねって言ってたじゃない

男１ 何をゴチャゴチャ言ってるんだ。そう簡単にプレゼントが盗めると思うなよ

女２ 盗むってどういうこと？

女１ 私たち泥棒じゃないよ

男１ 嘘をつくな。お前たち、怪盗エックスだろ

女１ え？

女２ 怪盗エックス？

男１ クリスマスプレゼントを盗んでどうするつもりか知らないが、そんなことはさせないぞ

女２ 怪盗エックスって？

男１ だからお前たちが

女１ 怪盗エックスなんか知らないよ

男１ 嘘をつくな。お前たちが怪盗エックスじゃなかったら誰が怪盗エックスなんだ

女１ 勝手なこと言わないで。私たち、どう見たって普通の子どもじゃない

男１ 変装してるんだろ。怪盗エックスは変装の名人だからな。子どものフリをして油断させようとしてるんだ。騙されないぞ

女１ ああ、もう。困ったな

女２ どうしよう？

女１ 何とかしないと。このままじゃ本当に捕まっちゃうよ

女２ そんなの嫌だよ

女１ どうしよう

女２ あの、私たち怪盗エックスなんかじゃないですよ

男１ まだそんなことを言うのか

女１ サンタさんにプレゼントを渡しに来ただけなの

男１ プレゼント？　プレゼントは普通もらうものだよ。渡しに来るなんておかしいじゃないか

女２ クリスマスにはいつもプレゼントをもらうから、そのお礼に

女１ ２人でクッキー焼いたんだよ

男１ ……本当に怪盗エックスじゃないの？

女１ だからさっきからそうやって言ってるじゃない

女２ 女１、怒っちゃダメだよ

男１ ……違うの？

女１ 違います

男１ じゃあどうして煙突から？

女２ プレゼントをあげる時は煙突から入るものでしょ。サンタさんだってそうじゃない

女１ 別に煙突から入らなくたってよかったんだけど

女２ 煙突じゃなきゃダメなの

女１ はいはい

男１ 本当に怪盗エックスじゃないの？

女１ だから違うって

男１ 本当に？

女２ 本当だよ

男１ 何だ、そうだったのか。あー、よかった。ごめん、勘違いしちゃった

女１ ねぇ、怪盗エックスって何なの？

男１ ああ、怪盗エックスね。その前にちょっと休憩していいかな。緊張しちゃって。本当はすごく怖かったんだ

女２ 怖かったの？　私たちが？

男１ だって怪盗エックスだと思ってたから。本物じゃなくてよかったよ

女１ 臆病なのね

男１ 自慢じゃないけど僕はすごく怖がりなんだ

女１ 威張って言うことじゃないと思うけど

男１ とりあえず座って待ってて。何か飲み物を持ってくるよ

女１ はい

女２ ありがとうございます

 男１退場。

女１ 何だったんだろう、一体

女２ 怪盗エックスだって

女１ どうして私たちが怪盗エックスなの？　間違えるなんておかしいよ

女２ あの人おもしろかったね。お鍋とか持ってたよ

女１ よっぽど怖かったんだろうね。誰なんだろう、あの人？サンタさんじゃないよね

女２ トナカイだよ、きっと。ツノが生えてたもん

女１ やっぱりそうかな。トナカイって怖がりなんだ

 男１登場。鍋やらは脱いでいる。

男１ お待たせ。ホットミルクだよ

女２ うわぁ、おいしそう

女１ ありがとう

男１ お菓子もあるから、食べていいよ

女２ チョコレート？

女１ あ、私いらない

男１ どうして？

女１ 甘いものって苦手なの

男１ そうなんだ。珍しいね

女２ 女１ってちょっと変わってるの

女１ 普通だよ。それで、怪盗エックスって、一体どういうこと？

男１ さっきはごめん。実は、怪盗エックスから予告状が来たんだ。クリスマスプレゼントをいただくって

女２ 予告状？カッコいい

女１ 怪盗エックスって有名な泥棒でしょ？

男１ うん。狙ったものは絶対に盗んでしまうんだ

女２ 怪盗エックスから予告状がきて

女１ それで私たちと間違えたのね

男１ 突然煙突から入ってきたから、絶対怪盗エックスだと思って

女２ ちょっと待って。怪盗エックスにプレゼントを盗まれたら、今年のクリスマスはプレゼントもらえないんじゃない？

男１ だからとっても困ってるんだよ

女２ そんなの嫌だよ

男１ 何とか追い返そうと思って、こうやって待ち構えてたんだけど

女１ 来ないの？　怪盗エックス

男１ うん。全然来ない

女２ どうして？

男１ さあ

女１ 予告の時間は何時？

男１ ちょっと待って。予告状を取って来よう

 男１退場。

女１ 何だか大変なことになってるね

女２ ねぇ、怪盗エックスってさ

女１ 何？

女２ サインとかもらえないかな？

女１ サインなんかもらってどうするの？

女２ 記念に。あ、そうだ、サンタさんのサインも欲しいな

女１ はいはい。本物に会えたらね

 男１登場。

男１ これだよ

女１ 十二月二十四日の午前零時、クリスマスプレゼントをいただきに参上する。怪盗エックス

女２ 本当だ

女１ でも、午前零時って真夜中だよね。もうすぐお昼になるよ

男１ おかげで眠くてしょうがないよ

女２ 寝ないで待ってたの？

男１ そうだよ

女１ どうしたんだろう？

女２ 寝坊かな？

女１ そんなわけないでしょ

女２ じゃあ何だろう？

女１ 誰かのイタズラなんだよ、きっと

男１ だといいけど。何事もないならそれが一番いい

女２ プレゼント欲しいなぁ

女１ ね

男１ みんな楽しみにしてるんだよね。あぁ、困ったなあ。来るならさっさと来ればいいのに

女１ でも来たら困るでしょ？

男１ そりゃ困るけど、でも予告状が来てるのに本人が来ないなんて。モヤモヤするなぁ

女２ そうだよね。何かあったのかなって心配になるよね

女１ 怪盗エックスの心配したって仕方ないでしょ

男１ ドキドキするじゃないか。はっきりしてほしいよ。心臓に悪い

女１ 本当に怖がりなのね。ねぇ、あなたはトナカイだよね？

男１ うん、そうだよ。僕はトナカイ

女２ やっぱり。サンタさんのソリを引くんだよね

男１ そうだよ

女２ じゃあ本当に空を飛べるの？

男１ 当たり前じゃないか。僕が毎年ソリを引いてプレゼントを配るんだ

女２ うわぁ、すごいな

女１ サンタさんは今どうしてるの？

男１ 寝てるよ。じいさんはクリスマス以外はずっと寝てるんだ

女１ ああ、やっぱりそうなんだ

女２ よろしくトナカイさん。私は女２って言います

女１ 女１です

男１ 女２と女１だね。よろしく。そういえば、じいさんにプレゼントを渡しに来たんだっけ？

女２ うん、そうだよ

男１ じいさんはまだ寝てるけど、どうする？

女１ じゃあ枕元に置いて行きたいんだけど

男１ そうだね。じいさんきっと喜ぶよ。プレゼントはあげてばかりでもらったことなんかないんだから

女２ やったぁ。わざわざ煙突から入った甲斐があったね

女１ ちょっと痛かったけどね

男１ 煙突から入るのって、じいさんの真似？

女２ そう。一回やってみたかったの

女１ 最初は玄関から入ろうとしたんだけど、開いてなかったし、呼んでも誰も出てこなかったから

男１ ああ、あれは君たちだったのか。怪盗エックスの罠だと思って開けなかったんだ

女２ 何だ、そうか

女１ 家の裏にはしごがあったから、それで上ったんだけど

女２ 色々考えたんだよね。一応家の周りを回って

女１ 窓は全部カーテン閉まってたし

女２ そうだ、郵便受けに手紙が入ってなかったっけ？

男１ 手紙？

女１ そうだっけ？　私、見てないから

男１ ちょっと見てくるよ

 男１退場。

女１ 植木鉢壊したのは内緒だからね

女２ うん、分かってる

 男１登場。

男１ あったよ、手紙

女１ 何だった？

男１ えっと、何にも書いてないな

女２ 開けてみてよ

男１ うん。何々、のっぴきならない事情により、予告時間は本日正午に変更。怪盗エックス

女２ 怪盗エックスだ

女１ 来るんだ、やっぱり

男１ うわぁ、どうしよう

女１ のっぴきならない事情って何だろう

女２ 風邪でもひいたのかな

女１ だったらお休みするんじゃない？

女２ じゃあやっぱり寝坊だよ

女１ そんなわけないでしょ。正午っていうのは昼の十二時だよね

男１ うん。今、何時？

女２ えっとね、もう十二時になるよ

男１ 大変だ、何でもっと早く言ってくれないんだよ

女２ だって忘れてたんだもん

女１ 気付かないからいけないんでしょ

男１ 郵便受けなんかいちいち見ないよ。ああ、どうしよう

女２ 怪盗エックスってどうやって来るんだろう？

女１ 煙突から入ってくるのかな？

女２ サンタさんみたいだね

男１ よし、みんな机の下に隠れるんだ

女１ 地震じゃないんだから。とにかく、準備しないと

女２ 準備って？

女１ 怪盗エックスを迎え撃つ準備

女２ でも狙ったものは絶対盗み出すんでしょ？

女１ それはそうだけど、盗まれちゃったらクリスマスプレゼントもらえないよ

女２ あ、そうか。それは困るね

男１ お願いだ。何とか怪盗エックスを追い返してくれ

女２ え？　私たちが？

女１ 何とかって言われても

男１ 僕はこういうのダメなんだ。ケンカも弱いし

女１ だらしないなぁ。手伝ってもいいけど、どうすればいいかな？

女２ 何かいい方法ない？

男１ よし、サンタじいさんの秘密の道具を持ってくるよ。ちょっと待ってて

 男１退場。

女２ 秘密の道具って何だろう？

女１ さあ？

女２ 魔法とか使えるのかな？

女１ おもしろそう

女２ あ、そうだ

女１ 何？

女２ 怪盗エックスが来るんだったら、カメラ持ってくればよかったね

女１ ……

 男１が赤と青の手袋を持ってくる。

男１ お待たせ。いいものがあったよ

女１ これって手袋？

男１ うん、これは不思議な手袋なんだ

女２ 不思議な手袋？　何が起こるの？

男１ 分からない

女２ え？　分からない？

女１ 分からないってどういうこと？

男１ この手袋はつけていると何か不思議なことが起こるんだ。でも使う人によって何が起こるか分からない。もしかしたら何も起こらないかもしれない。だからよく分からないんだ

女１ それって役に立つの？

男１ どうだろう？　とりあえず二つあるから、二人でつけて

女２ え？　トナカイさんは？

男１ 僕はいいよ

女２ どうして？

男１ ほら、僕は男だから、か弱い女の子を優先しなきゃ

女１ そんなこと言って、私たちに戦わせるつもりなんでしょ

男１ そんなわけないじゃないか

女１ 本当に？

男１ そんなわけだよ

女１ ほら、やっぱり

女２ 女１、どっちがいい？

女１ どっちでもいいよ

女２ じゃあ私は赤い方ね

女１ じゃあ私は青い手袋

女２ 何が起こるんだろうね？　楽しみだな

女１ でも何も起こらないかもしれないんでしょ？　これだけじゃ不安だな

男１ これぐらいしかなかったんだ

女２ 大丈夫。きっと何とかなるよ

女１ 女２っていつもお気楽だよね。相手は怪盗エックスだよ

女２ すごいんだよね

男１ 怪盗エックスは変装の名人らしいよ。どんな人にもそっくりに変装して、どんな場所だって忍び込むことができるんだ

女１ お手上げだね

女２ そんなことないよ。みんなで力を合わせてがんばろう

男１ プレゼントを盗まれるわけにはいかないんだ。何としても守らないと

女１ あ、十二時になったよ

 十二時の時計の音が鳴る。三人、身構える。

女２ 来ないね

女１ 何だ、結局来ないじゃない

男１ おかしいな

女２ 遅刻だ

男１ やっぱりいたずらだったのかな

女１ あれ？

女２ 何？

女１ 向こうで何か音がしなかった？

女２ 本当？

女１ ちょっと見てくる

 女１退場。

男１ 怪盗エックスかな？

女２ え、じゃあ女１危ないんじゃない？

男１ そうか、助けに行かないと

 女１登場。

女２ あ、女１。大丈夫だった？

女１ うん。風の音だったみたい

男１ そうか、良かった

女１ そういえば、肝心のプレゼントはどこにあるの？

男１ その棚の中に隠してあるんだけど

女１ 確認した方がいいんじゃないかな。いつの間にか盗まれてるっていうのがよくあるパターンだよ

女２ そうだね。もう盗まれちゃってたらどうしよう

男１ そんなはずはないよ。この部屋にはずっと僕たちがいたんだから

 男１は棚を開けて大きな袋を取り出す。

男１ うん、大丈夫だ

女２ それがプレゼント？

男１ うん。これはサンタじいさんの魔法の袋でね。その子どもが欲しがってるプレゼントを取り出すことができるんだ

女１ へぇ、すごい

男１ でも盗まれてないし、やっぱりイタズラだったのかな

女１ ちょっと見てもいい？

女２ 私も見たい

男１ ああ、いいよ

女２ 中は暗くてよく見えないね

女１ 案外軽いんだね。これだったら私でも持てる

男１ 便利な袋なんだ。じいさんの大事な商売道具だよ

女１ そっか。じゃあ私そろそろ行くね

女２ え？

女１ わざわざ隠し場所を教えてくれてありがとう

男１ ま、まさか

女１ そう、そのまさか。私が怪盗エックス

女２ 女１はどうしたの？

女１ あの子はそっちの部屋で寝てるよ。手荒な真似はしたくなかったんだが

男１ くそ、油断した

女１ 予告の時間に遅れてしまってすまなかったね

女２ そうだ、どうして遅刻したの？

女１ それは、色々事情があったんだ

男１ どんな？

女１ 予告状を出したのはいいが、いつの間にかウトウトしてしまってね

女２ やっぱり寝坊したんだ

女１ 仕方ないだろ

女２ 怪盗エックスが寝坊した

女１ うるさい。午前零時なんか良い子は寝てる時間だぞ

男１ プレゼントを返せ

女１ 残念だけどそれはできない。では、さらば。メリークリスマス

 女１退場。

女２ やっぱり寝坊だったんだ

男１ くそ、まんまとやられた

女２ どうしよう？

男１ 追いかけよう

女２ うん。あ、その前に女１は？

 女１登場。

女１ うーん

女２ あ、女１。大丈夫？

女１ いきなり変な薬で眠らされて

男１ 本物の女１？

女１ そうだよ

男１ 変装すると本物と見分けがつかないな

女１ そうだ、怪盗エックスが窓から逃げて行ったよ

女２ どうしよう。追いかけなきゃ

女１ どうやって？　ハングライダーで飛んで行っちゃったよ

男１ よし、こういう時は僕の出番だ

女１ どうするの？

男１ 僕に任せて。さあ、こっちだ

 三人退場。

 三人登場。ソリがある。

女２ あ、ソリだ

女１ これで追いかけるの？

男１ さあ、早く乗って

女１ 大丈夫なの？

男１ ひとっとびさ。さあ、行くよ

 空飛ぶソリで怪盗エックスを追いかける。

女２ すごい、ジェットコースターみたい

女１ 本当に飛んでる

男１ スピード出すからしっかり捕まって

女１ 怪盗エックスはどっちに行ったのかな？

女２ あ、見つけた。あっちだ

男１ よし、見失わないように

女２ うん

女１ あ、降りるよ

男１ あの家か

女２ 怪盗エックスの隠れ家かな

女１ プレゼント盗んでどうするつもりなんだろう

男１ とにかく取り返さなきゃ。突入だ

女１・２　おー

【２】

 怪盗エックスの隠れ家。「うわぁー」という叫び声がして三人登場。

女１ ああ痛かった

女２ 大丈夫？

女１ 一日に二回も煙突から落ちると思わなかった

男１ 二人とも大丈夫？

女１ うん、何とか

女２ ここが怪盗エックスの家？

男１ 不気味だな。広いし暗いし静かだし。怖いよ

女１ やけに簡単に入れたけど、大丈夫かな？

女２ 何が？

女１ 普通は中に入れないようにするんじゃない？

男１ そういえば、この家の場所も簡単に分かったし

女１ ひょっとしたら罠かもしれない

女２ えー、じゃあ危ないんじゃない？

男１ そんな。どうしよう

女１ 気をつけないと

 どこからともなく声がする。

声 ハッハッハ。よく来たな

女１ 怪盗エックスだな

声 いかにも。ここは私の屋敷。せっかく来たんだ。楽しんでいってくれたまえ

女２ プレゼントを返して

声 苦労して盗んだんだ。簡単には返せないぞ。欲しかったら自分たちで取り返してみてはどうかな？

男１ あんな勝手なこと言ってるよ

女１ いいわ。それなら絶対取り返すんだから

声 そうだ、この屋敷は少々危険な造りになっている。十分に気をつけてくれたまえ

女２ やっぱり罠があるのね

男１ プレゼントを盗んでどうするつもりなんだ

声 私の目的はクリスマスを乗っ取ることだ。プレゼントはそのひとつに過ぎない

女１ クリスマスを乗っ取る？

女２ そんな

声 そのために私にはまだ必要なものがあるんだ。それを君たちから盗ませていただく

女２ 私たちから？

男１ 一体何を？

声 それを言ったらおもしろくないだろう。これはゲームだよ。君たちはプレゼントを取り返す。私は必要なものを奪い取る。さて、どちらが先に盗みだせるかな？　ハッハッハ。健闘を祈る

男１ ゲームだって。完全に遊んでるな

女２ クリスマスを乗っ取るなんて、許せない

女１ でも具体的にどうするのか全然分からないよね

男１ プレゼントを盗まれたら十分乗っ取られた気はするんだけど

女２ それ以上の目的があるのかな

女１ 怪盗エックスが言ってた、必要なものって何だろう？

女２ この手袋じゃないかな？

男１ でも怪盗エックスはこの手袋のことは知らないはずだよ

女２ あ、そっか

女１ 何を狙ってるのか分からないけど、こっちはとにかくプレゼントを取り返さなきゃ

女２ 考えても仕方ないよね

男１ 十分気を付けなきゃ。この屋敷は危険だって言ってたから、きっと色んなところに仕掛けがあるんだ

女１ そうね。じゃあ行きましょう

女２ うん

 突然暗くなる。

女２ あれ？　どうしたの？

男１ 停電か？

女１ きっとこれも罠だよ、みんな気を付けて

女２ 真っ暗で何にも見えないよ

女１ 離れちゃダメよ

男１ みんな大丈夫か？

女２ どうしよう、女１、どこ？

 明るくなる。女２しかいない。

女２ あ、明るくなった。あれ？　みんなどこ？　女１？　トナカイさん？　どうしよう、きっとこれも罠ね。とにかくみんなを探さなきゃ。でも一人は怖いなぁ。女１ー。トナカイさーん

 女２退場。

 女１登場。

女１ みんなどこ行っちゃったんだろう？　女２ー。トナカイさーん。このまま一人で行こうかな。でもみんなを置いていくわけにもいかないし。困ったなぁ。この手袋も普通の手袋にしか見えないんだけど。本当に不思議な力なんかあるのかな？

 男１登場。

男１ ああ、いた。よかった

女１ あ、トナカイさん

男１ 暗くなったと思ったらいつの間にか誰もいなくなってて。ずいぶん探したんだよ

女１ 女２はいなかった？

男１ いや、見てないよ

女１ そっか。大丈夫かな？　１人で勝手なことしてなきゃいいけど

男１ 早く探さないと、怪盗エックスに捕まるかもしれない

女１ そうだね。急いで見つけなきゃ

男１ ところで、さっきその手袋は不思議な力があるって言ってたね？

女１ え？　何言ってるの？　これはトナカイさんがくれたんじゃない

男１ あれ？　そうだっけ？

女１ そうだよ。これはサンタさんの不思議な手袋で、ついさっき……あ、お前は怪盗エックスだな！

男１ え？　いきなに何を言うんだよ

女１ 本物のトナカイさんだったら手袋のこと知らないはずないもの。怪盗エックスでしょ

男１ しまった、バレたなら仕方ない。その手袋にはどんな力があるのか、教えてくれないかな

女１ そんなこと言えるわけないでしょ

男１ うむ、確かにその通り。でも私の狙いはそれではないから安心したまえ

女１ 一体何を狙ってるの？

男１ だから言っただろう？　クリスマスの乗っ取りだよ

女１ そうじゃない。私たちから何を盗むつもりなの？

男１ 盗んだプレゼントをどうするか考えれば分かると思うよ。そのためにわざわざここまで来てもらったんだから

女１ やっぱりわざとここに呼んだのね

男１ 君たち二人がいたのは計算違いだったけどね

女１ 私と女２のこと？

男１ トナカイ君はきっと空を飛んでついてくると思ってたんだ。まぁ、子どもが二人増えたところで大した問題はない

女１ 子どもだと思って油断してると痛い目にあうよ

男１ それは怖い。十分気を付けることにしよう。では

女１ あ、待て

 男１退場。それを追って女１退場。

 男１登場。

男１ おかしいな、みんなどこに行ったんだろう。怪盗エックスに捕まってなきゃいいけど。おーい、みんなー

 女２登場。

女２ あ、トナカイさん。見つけた

男１ ああ、いた。よかった。無事だったんだね

女２ うん、大丈夫だよ

男１ 女１は？

女２ 分からない。はぐれちゃって

男１ そうか、心配だな

女２ きっと大丈夫だよ。早く探しに行こう

男１ うん、そうだね。でもこの屋敷は広いからなぁ

女２ 迷いそうになるよ

男１ 部屋もたくさんあるし。怪盗エックスは一人で住んでるのかな？

女２ どうなんだろう？　人のいる気配が全然ないよね。何だか不気味

男１ さっきいくつか部屋に入ってみたけど、あれって盗んだ物なのかな？

女２ 絵とかよく分からない美術品なんかだよね。きっとそうなんじゃないかな

男１ やっぱりすごい泥棒なんだな

女２ 泥棒じゃないよ、怪盗。本当にすごいんだから

男１ あれ？　知ってるの？

女２ あ、噂。噂で聞いたの

男１ そうか。じゃあとりあえず女１を探しに行こうか

女２ うん

男１ あれ？　そういえば手袋はどうしたの？

女２ ああ、手袋？　さっきなくしちゃったの

男１ なくしたの？　どうして？

女２ どうしてって、それは、えっと

男１ ひょっとして最初からしてなかったんじゃないの？

女２ え？　どういうこと？

男１ お前が怪盗エックスだろ

女２ ひどい。どうしてそんなこと言うの？

男１ 手袋なんかそう簡単になくさないよ。それにずいぶん怪盗エックスの肩を持つじゃないか

女２ 失敗失敗。バレちゃった

男１ やっぱりそうだな

女２ そうだよ。こんな簡単なミスをするなんて、今日はついてないな

男１ プレゼントはどこにあるんだ？

女２ そう、そのことで君と話があるんだよ

男１ え？

女２ 私のお願いを聞いてくれないかな？

男１ お願い？

女２ プレゼントは盗み出したけど、それだけじゃ私の目的は達成できない

男１ 一体何を狙ってるんだ？

女２ 君だよ

男１ え？

女２ 君の力が必要なんだ。私に協力してくれないか？

男１ そんなこと言われても、協力なんかできるか

女２ そこを何とか頼むよ

男１ 何だか分からないけど、怪盗エックスに協力なんか絶対にしないぞ

女２ そうか。そこまで言うなら力ずくだ。無理にでも言うことを聞いてもらう

 女１登場。

女１ 待て

女２ おや、また君か

女１ 今度は女２に変装してるのね。トナカイさん大丈夫？

男１ うん。さあこれで二対一だぞ

女２ さすがに分が悪いな。一旦退くことにしよう

女１ トナカイさん捕まえて

男１ え？　僕が？

女２ おっと、そう簡単には捕まらないぞ

女１ あ、待て

 女２退場。

女１ 逃げられちゃった

男１ ごめん

女１ しっかりしてよ、もう

男１ だからこういうのダメなんだ

女１ 女２は？

男１ 見てないよ

女１ そっか。探さなきゃね。そうだ、怪盗エックスは何か言ってた？

男１ そうだ、怪盗エックスはどうやら僕を狙ってるみたいなんだ

女１ トナカイさん？　どういうこと？

男１ よく分からないけど、僕に協力してくれって

女１ それでどうしたの？

男１ もちろん断ったよ

女１ 理由は？

男１ え？

女１ どうしてトナカイさんが必要なのか理由は聞いてない？

男１ ああ、聞くまでもないと思って

女１ 聞いておいてよ。それで怪盗エックスの狙いが分かったかもしれないのに

男１ あ、そうか。ごめん

女１ まぁいいわ。とにかく怪盗エックスはトナカイさんを狙ってるのね。うん、じゃあトナカイさんを守らなきゃ

男１ よろしく頼むよ

女１ もちろんトナカイさんも戦うのよ

男１ え？　無理だよ。言っただろ。僕、ケンカとか弱いんだ

女１ 女の子に守ってもらうなんて恥ずかしくないの？

男１ そんなこと言われても

女１ 仕方ないな。そのかわり絶対捕まらないようにしてね

男１ うん、分かった。がんばるよ

女１ じゃあ女２を捜しに行こう

男１ うん

 女１、男１退場。

 女２登場。

女２ 女１ー、トナカイさーん、どこにいるのー？暗いし怖いし、疲れちゃった。休憩

 女１登場。

女１ あ、女２。見つけた

女２ あ、女１。良かった。怖かったよ

女１ 大丈夫だった？

女２ うん、何とかね。一人で寂しかったよ。トナカイさんは？

女１ 分からない。捜してるんだけど

女２ そっか。でも女１に会えてよかった。これでもう安心だね

女１ そうだね。後はトナカイさんを見つけて、プレゼントを取り返そう

女２ うん。安心したらお腹空いちゃった

女１ 私も。ちょっと休憩しない？

女２ 今ちょうど休憩しようとしてたとこなの

女１ でも食べる物なんて持ってないよ

女２ 私持ってる

女１ 本当？

女２ じゃーん。サンタさんの家にあったチョコ

女１ あ、本当だ

女２ 勝手に持ってきちゃった

女１ 私にもちょうだい

女２ え？

女１ 何？

女２ 女１、チョコ食べるの？

女１ うん、食べるよ

女２ ウソ。女１甘い物嫌いでしょ？

女１ え？　そんなことないよ

女２ 嘘ついてる。分かった、本当は怪盗エックスでしょ

女１ 食べ物の好みとは初歩的なミスだったな

女２ やっぱり怪盗エックスだ

女１ しかし甘い物が嫌いな女の子なんているんだな

女２ 女１はちょっと変わってるんです

女１ そうみたいだな。気が強い子だよ

女２ 気は強いけどとっても優しいんだよ。しっかり者だし、すごく頼りになるんだから

女１ 覚えておこう。しかし今は頼りのその子もいないぞ。さぁどうする？

女２ どうするって、私をどうするつもりなの？

女１ 何、邪魔者は捕まえておこうと思っているだけさ

女２ そんな。どうしよう

女１ その手袋の力でも使ってみるかい？

女２ え？

女１ その手袋には不思議な力があるそうじゃないか。魔法でも使えるのかな？

女２ 分からないよ、そんなの

女１ 分からない？

女２ この手袋は使う人によって何が起こるか分からないの。第一、どうやって使ったらいいかも分からないし

女１ そうか。だったら安心して捕まえられる

女２ え、あ、どうしよう。喋らない方が良かったのかな

女１ 教えてくれてありがとう

女２ 来ないで

女１ 観念するんだな。と言いたいところだが、どうやら君の仲間が来るようだ。ここは見逃してあげよう

女２ え？

女１ まだまだゲームは続くぞ

 女１退場。

 男１、女１登場。

女２ あ、女１。トナカイさん

男１ 見つけた

女１ 女２、無事だった？

女２ うん、何とか

男１ そうか、良かった

女２ 今、怪盗エックスに襲われそうだったんだけど

女１ 本当？

女２ うん、でも２人が来てくれたから、逃げていったみたい

女１ そう。危なかったね

女２ 怖かったよ

男１ これでやっと三人揃ったね

女１ よし、じゃあ作戦会議をしよう

女２ うん

女１ まず状況を整理しましょう。私たちの目的は？

女２ 怪盗エックスに盗まれたプレゼントを取り返すこと

男１ でもどこにあるか分からないよ

女２ 順番に探していくしかないかな

女１ じゃあ次。怪盗エックスについて。みんなそれぞれ怪盗エックスには会ったんだよね？

女２ うん、さっきは女１に変装してたよ

女１ またか。自分に変装されるのって何か嫌だな

男１ 僕のときは女２だったよ

女２ え？　私？

女１ うん、そうだったね。私のときはトナカイさんだった

男１ これじゃ誰が本物か分からないな

女２ でも私、変装見破ったよ

女１ 本当？　どうやって？

女２ えっとね、チョコを食べようとしてたの

男１ チョコ？

女２ サンタさんの家から持ってきちゃった

女１ ああ、あれ持ってきたんだ。女２って相変わらず食いしん坊だよね

女２ だってあのチョコおいしかったんだよ

女１ 私チョコ嫌いだもん

女２ そう。それで女１がチョコちょうだいって言ったの。本物の女１だったらそんなこと言うわけないじゃない。だから怪盗エックスだって

男１ なるほど。そういうことか

女２ どう？　すごいでしょ

男１ すごいな。お見事だよ

女２ えへへ、まあね

女１ トナカイさんのときはどうだった？

男１ うん、女２に変装してたんだけど、手袋をしてなかったんだ。それでどうしたのって聞いたら、なくしたって言うから

女２ なくすわけないよ。大事な手袋だよ

男１ だからおかしいと思って。それにやたら怪盗エックスを褒めてたんだ

女１ 本物の女２だって怪盗エックスのこと褒めてそうだけどね

女２ え？　だって怪盗エックスってすごいんでしょ？

女１ 敵を褒めなくていいの

女２ だってカッコいいじゃない

男１ 女１のときはどうだったの？

女１ トナカイさんに変装してたんだけど、手袋のこと知らなかったの

女２ 知らなかったって？

女１ みんなとはぐれて、独り言を言ってたの。この手袋、不思議な力なんかあるのかなって。そのときに怪盗エックスが現れて、不思議な力があるってどういうこと？　って

男１ ああ、それは確かにおかしい

女１ トナカイさんがくれた手袋なのに、知らないはずないから

女２ 手袋、役に立ったね

女１ でもこれからはもう使えないよ。怪盗エックスはもうこのこと知ってるんだから

女２ あ、そうか

女１ それで、怪盗エックスがトナカイさんに言ってたことなんだけど

男１ ああ、あれか

女２ 何？

男１ 怪盗エックスが僕に協力してくれって

女２ どういうこと？

男１ 分からない。聞かなかったんだ

女１ ちゃんと聞き出してくれればよかったのに

男１ ごめん

女２ それって、怪盗エックスはトナカイさんを狙ってるってこと？

男１ そうみたいなんだ。無理矢理連れ去られそうになったんだけど、女１が来てくれて

女２ じゃあ、トナカイさんを盗まれたらダメなのね

女１ そういうこと

男１ 何だか物みたいな扱いだな

女１ だからトナカイさんは絶対怪盗エックスに捕まっちゃダメだよ

男１ うん、分かってる

女１ 私たちが守るんだからね

女２ うん。でもどうしてトナカイさんなのかな？

女１ それが分からないんだよね

男１ そうだね。僕なんか何の役にも立たないのに

女１ そうだよね

男１ ちょっと、それはひどくないか？

女１ だって自分で言ったんでしょ？

男１ これでも謙遜して言ってるんだよ

女２ 二人ともケンカしないでよ。トナカイさんだって何かの役には立つよね？

男１ そうだよ。えーっと、そうだ、こう見えても料理は得意なんだよ

女１ 料理？

女２ 本当？　どんなの作れるの？

男１ そうだな、一番得意なのはオムライスかな。こうやって卵でくるっと包むんだ

女２ えーいいなぁ。おいしそう。オムライス食べたい

男１ いいよ。今度作ってあげる

女２ 本当？　やった

女１ ちょっと、今はそんな話どうだっていいでしょ

女２ いいじゃない。オムライスおいしいよ。女１だってオムライス好きでしょ？

女１ うん、まぁそうだけど

男１ じゃあ今度二人にごちそうしてあげるよ

女２ ほら。女１、一緒に行こう

女１ 分かったから。その話はまた今度。今は怪盗エックスがどうしてトナカイさんを狙っているか

男１ どうして僕を狙ってるか

女２ 分かった。コックさんにするつもりなんだ

男１ え？

女２ トナカイさんを捕まえて、おいしいごはんを作らせるの

女１ それってクリスマスと何の関係もないよね

男１ それに怪盗エックスは僕が料理得意だって知らないんじゃないかな

女２ そっか

女１ 怪盗エックスはクリスマスを乗っ取るって言ってたんだよ

女２ プレゼントとトナカイさんを使って

男１ クリスマスを乗っ取る？

女２ 分かった。怪盗エックスはサンタさんになる気なんだ

女１ サンタさんに？

男１ どういうこと？

女２ だから、サンタさんの代わりにクリスマスプレゼントを配るの。トナカイさんがいればソリに乗れるし、怪盗エックスは変装の名人でしょ

男１ 本当かなぁ？

女１ サンタクロースに成り代わるのか。案外、当たってるかも

女２ 本当？

女１ それだったら辻褄が合うよね

男１ でもどうしてそんなことするんだろう？

女１ それは分からないけど

女２ だったら無理してプレゼント取り返さなくてもいいんじゃない？怪盗エックスが配ってくれるんだから

女１ ダメよ。サンタさんのフリして悪いことするかもしれないじゃない

女２ 悪いことって？

男１ 欲しくもないプレゼントを置いていったり

女１ 人の家に忍び込んでイタズラしたり

女２ そんなのダメだよ

女１ だからプレゼントは取り返さなきゃ

女２ そっか

女１ よし、じゃあこれからのことね。まず全員一緒に行動すること

女２ みんな一緒にいれば変装されないですむもんね

女１ そういうこと

女２ でももしはぐれちゃったら？

男１ 合言葉を決めようか

女１ うん、それがいいかも

女２ 合言葉？　何かかっこいいね

女１ そう？

女２ じゃあ私が決める。えっとねぇ

男１ どうするの？

女２ 赤手袋青手袋黄手袋

女１ 赤手袋青手袋黄手袋？　言いにくいよ

女２ そうかな？　いいと思ったんだけど

男１ でもそのぐらいがいいかもしれない。知らなきゃ絶対言えないから

女１ それは確かにそうだけど。あ、答える方も必要だよね

女２ 答えるって？

男１ 山といえば川みたいに、お互い確認できるようにしなきゃいけないんだよ

女１ そうそう

女２ そっか。じゃあもうひとつは、びたみんびたみんゆでたまご

女１ 何それ？

女２ たまごは栄養たっぷりなんだよ

女１ うん、それは知ってるけど

女２ ゆでたまごっておいしいよね

男１ まあ何でもいいじゃないか

女１ じゃあそれで決まりね。確認。合言葉は？

女２ 赤手袋青手袋黄手袋

男１ びたみんびたみんゆでたまご

女１ 忘れないようにね

女２ うん

女１ もし合言葉を言えなかったら、怪盗エックスだと思ってすぐに逃げるように

男１ 了解

女２ 何だか楽しくなってきたね

女１ 楽しい？

女２ 映画の主人公になったみたいじゃない？

女１ そんなこと言ってないで真面目にやってよ

男１ いいじゃないか。あんまり緊張してると疲れちゃうよ

女１ もう

女２ 女１だって、結構楽しんでるでしょ？

女１ まぁ、確かにね。こんなこと普通はないから

女２ だったらもっと張り切って行こう

女１ そうだね。よし、怪盗エックスをギャフンと言わせてやろう

男１・女２　おー

女１ まずは順番に部屋を調べていきましょうか

男１ そうだね

女１ さっきも言ったけど、必ず全員で行動すること。勝手に動いたりはぐれたりしないでね

女２ うん、分かった

女１ じゃあ行こう

 三人退場。

【３】

 「うわぁー」という叫び声がして女１、女２登場。

女１ 痛い

女２ 大丈夫？

女１ もう、何で一日三回も落っこちなきゃいけないの？

女２ 落とし穴があるなんて思わなかったね。びっくりした

女１ 女２は大丈夫だった？

女２ うん、何とか。あれ？　トナカイさんは？

女１ あれ、落ちなかったのかな？　トナカイさーん

女２ いないね

女１ もう、はぐれちゃダメだって言ったのに

女２ 仕方ないよ、私たちが先に歩いてたんだから

女１ 一緒に落っこちてくればいいじゃない。本当に臆病なんだから

女２ また探さなきゃね

女１ 今日は痛い思いばっかりだし、絶対怪盗エックスこらしめてやるんだから

女２ 煙突から落ちたのは私たちのせいだけどね

女１ いいの。落とし穴作るなんて許せない

女２ まずトナカイさん探しに行かなきゃ。怪盗エックスに捕まっちゃうよ

女１ そうね。ぐずぐずしてるヒマはないか。落ちてきたから二階に行かなきゃ。急ごう

女２ うん

 二人退場。

 男１登場。

男１ ああ、二人はどこへ行っちゃったんだろう。落とし穴があるとは思わなかったな。飛び降りて追いかけた方が良かったんだろうけど、怖かったしなぁ。とりあえず下に降りてきたけど、おーい。みんなー。いない。早く見つけなきゃ。怪盗エックスに捕まっちゃうよ。そうだ、合言葉何だっけ。赤巻紙青巻紙黄巻紙。違うな。赤パジャマ青パジャマ黄パジャマ。これも違うな。生麦生米生卵。何だかどんどん間違ってきてる気がする。一人は怖いよ。おーい、みんなー。緊張したらトイレ行きたくなってきた。トイレトイレ、あ、あそこだ

 男１退場。男１の「うわぁー」という叫び声がする。

 女１、女２登場。

女１ トナカイさんいないね

女２ どこ行っちゃったのかな

女１ 諦めてプレゼント探そうか

女２ ダメだよ。怪盗エックスに捕まっちゃいけないんでしょ

女１ もう捕まってるかもしれないよ

女２ え？

女１ あの落とし穴は怪盗エックスの罠だから。罠にかかったことは知ってるはずだもの

女２ そっか。でも合言葉も決めたし、怪盗エックスに見つかってもうまく逃げられるんじゃないかな

女１ そうだといいけど。こう広いと捜すのも大変。どうしようかな

 男１登場。

男１ ああ、いたいた。よかった

女２ あ、トナカイさん

男１ 二人が落とし穴に落ちちゃったからどうしようかと思ったけど。合流できてよかったよ

女２ 怪盗エックスに捕まっちゃったんじゃないかって心配したんだよ

男１ 大丈夫だよ。十分気を付けてる

女１ 合言葉は？

男１ え？

女１ 合言葉を言って

男１ 合言葉？　あれ、何だっけ？　ちょっと待って

女２ トナカイさん？

女１ 合言葉が言えなきゃ怪盗エックスだよ

男１ ちょっと忘れただけだよ。そう、赤巻紙青巻紙黄巻紙

女２ 違うよ

女１ やっぱり怪盗エックスね

男１ ああ、間違った。赤パジャマ青パジャマ黄パジャマ

女２ それも違う。怪盗エックスなんだ

男１ くそ、さっきトナカイの独り言を聞いてたのに、違う合言葉を言ってたのか。騙された

女１ 油断も隙もないわね

女２ じゃあ本物のトナカイさんは？

男１ 安心したまえ。まだ捕まえてはいないよ。ただ、さっき私の仕掛けた罠にかかったようだがね

女２ ええ？　どうしよう

男１ 人の心配をしてる場合かな？

女１ どういうこと？

男１ 今までは君たちに自由にさせていたが、もう手加減はなしだ。実力行使させてもらうよ

女１ 今までは手を抜いてたって言いたいわけ？

男１ もちろんだよ。子ども二人に臆病なトナカイ。相手にするのはわけない。それにここは私の屋敷だよ。その気になればいつでも捕まえられるんだよ

女２ そんな

女１ そううまくはいかないわよ

男１ 強がりを言うのはやめるんだな。君の大事な友達を捕まえたら少しは大人しくなるかな？

女２ え？　私？　私、捕まるの？

男１ 観念しろ

女２ 嫌！

女１ 女２に近づかないで

 女１、男１を蹴り飛ばす。

女２ 女１

男１ 痛い、何するんだ

女１ 油断してると痛い目に遭うって言ったでしょ

男１ 暴力は嫌いだよ

女１ こっちだって実力行使よ

女２ 女１、カッコいい

男１ ふん。まず君を黙らせた方がよさそうだな

女１ やれるもんならやってみなさい

男１ 生意気なことを言うじゃないか

女１ この手袋のこと忘れてるでしょ？

男１ ああ、不思議な手袋？　どうせ使い物にならないんだろ？

女１ それはどうかしら。何だかさっきから手がムズムズするの。それっ

 女１、男１をくすぐる。

男１ うわっ、何するんだ

女１ ほら、こちょこちょこちょこちょ

男１ あっはっは、やめろ、ははは、こら、やめるんだ

女１ やめないわよ。ほらほらほらほら

男１ わはは、やめてくれ、ははは、頼む

女１ 女２、今のうちに逃げるよ

女２え？　あ、うん

女１ それっ

 女１、女２退場。

男１ あー苦しかった。まさかあんな効果があるなんて。くそ、見てろよ

 男１退場。

 女１と女２が駆け込んでくる。

女１ 怪盗エックスは？

女２ 大丈夫、追ってこないよ

女１ そっか。あー危なかった

女２ 女１、すごいね？

女１ え？

女２ その手袋って、くすぐるのが上手になるの？

女１ どうなんだろう？　急に手が暖かくなって、ムズムズして。すごく手を動かしたくなったの

女２ そうなんだ

女１ 変な手袋

女２ 私のもそうなのかな？

女１ 違うんじゃない？　つける人によって何が起こるか分からないって言ってたよね

女２ そっか。でも何にも起こらない

女１ そのうち何か起こるんじゃないかな。ピンチになったら助けてくれたり

女２ そうだといいけど

女１ それより、怪盗エックス、トナカイさんの独り言を聞いてたって言ってたよね

女２ ああ、そうだったね

女１ どこに隠れて見てるか分からないのか。余計なことは言わないようにしなきゃ

女２ トナカイさんって、合言葉を間違って言ってたんだよね

女１ うん、そうやって言ってた

女２ わざと間違えたんじゃないよね。怪盗エックスが聞いてるなんて知らないんだから

女１ うん、そうだね

女２ 本物のトナカイさん見つけても、合言葉言えないかもしれないよ？

女１ ……その時はその時よ

女２ どうするの？

女１ 見つけてから考える。さぁ、トナカイさん捜しに行こう。早くしないと夜になっちゃう

女２ うん

 女１、女２退場。

【４】

 狭い部屋。女１と女２がいる。

女２ 今何時頃かな？

女１ ……

女２ もうすぐ夜になるよね

女１ ……

女２ お腹空いちゃったな。お菓子食べる？

女１ いらない

女２ じゃあ我慢する

女１ 女２食べたらいいじゃない

女２ だって女１食べないんでしょ？

女１ 甘いもの嫌いなの

女２ うん、そうだけど

女１ ああ、もう。どうしよう

女２ 閉じ込められちゃったね

女１ ……

女２ この部屋って倉庫なのかな。窓もないし、どこからも出られないよ

女１ トナカイさん捕まっちゃったかな

女２ 大丈夫だよ、きっと

女１ プレゼントも取り返せないし

女２ まだ時間あるよ

女１ どうするのよ。こんなとこに閉じ込められて。このまま時間切れじゃない

女２ だから、何とか方法を考えようよ

女１ 考えてるよ

女２ あのドア壊しちゃおうか

女１ 無理。さっきやったでしょ。頑丈でビクともしないよ

女２ じゃあ壁壊しちゃうのは？

女１ 壁なんかどうやって壊すの？　何の道具もないのに

女２ じゃあトナカイさんに助けてもらおう

女１ トナカイさんが助けてくれるとは思えないな。どこにいるかも分からないし

女２ 諦めないでよ

女１ 諦めてない。諦めるなんて絶対に嫌

女２ 女１らしいよね

女１ 何が？

女２ 負けず嫌い

女１ 悪い？

女２ いいと思うよ。女１のそういうとこ好き

女１ あんまり褒められてる気がしないんだけど

女２ でも女１って何でも一人で解決しちゃうから、ちょっと寂しい

女１ そう？

女２ ほら、前にハイキングに行って山道で迷子になったことあったじゃない

女１ ああ、あったね。そんなこと

女２ 細い山道で怖くなって、私が泣いてるのに女１はどんどん進んでいって

女１ だって泣いてても仕方ないでしょ

女２ そうやって叱られたけど、ちゃんとみんなのところへ連れてってくれたよね

女１ たまたまだよ

女２ 自分でどんどん進んで行けるのってすごいなぁって思ったの。私は全然ダメだから。いつも女１についてくだけで、何にもできない。ねぇ、私って役立たずかな？

女１ 何でそんなこと言うの？そんなわけないでしょ

女２ 女１は絶対そうやって言うよね。優しいから

女１ 優しくないよ

女２ 優しいんだよ、女１は。優しくて強くて、カッコいい

女１ 私そんなにすごい人間じゃないよ

女２ すごいじゃない

女１ すごくない。本当はとっても不安なの。うまくいかなかったらどうしようっていつも不安になるの

女２ でもうまくいくじゃない。大丈夫だよ、きっと

女１ 女２の方がよっぽど強いんじゃないかな

女２ え？

女１ さて、そこまで言われたら何とかしなきゃね

女２ この手袋がすごい力を出してくれたらいいのに

女１ どんな？

女２ 何か、こう、ドアを吹っ飛ばすとか

女１ そんな風にうまくいったら苦労しないよね。あれ？

女２ どうしたの？

女１ 何かまた手が暖かくなって……ねぇ、ヘアピンか何か持ってない？

女２ うん、あるけど

女１ 貸して

 女１はヘアピンをドアの鍵穴に差し込む。

女１ 開いた

女２ ええ？

女１ よし、行こう

女２ どうやったの？

女１ 何だか手がムズムズして、できそうな気がしたの。この手袋ってすごく器用になるみたい

女２ すごい。便利だね。女１、泥棒になれるよ

女１ なりたくないよ、そんなの。さぁ、一気に大逆転するよ

女２ うん

 女１、女２退場。

【５】

 女１、女２登場。

女２ トナカイさんいないね

女１ どこ行ったんだろう

女２ やっぱりもう捕まっちゃったのかな

女１ だったら怪盗エックスを捜した方が早いかも

女２ ええ？

女１ プレゼントも怪盗エックスが隠してるんだし、直接聞けばいいじゃない

女２ 危ないよ、そんなの

女１ 大丈夫、何とかなる、でしょ？

女２ うん

 男１ヨロヨロと登場。

男１ おーい、みんなー

女２ あ、トナカイさん

男１ もうひどい目に遭ったよ

女１ 本物？　合言葉は？

男１ そうそう、合言葉やっと思い出したよ。赤手袋青手袋黄手袋

女２ びたみんびたみんゆでたまご

女１ 本物みたいね。一体どうしたの？

男１ 二人とはぐれて、トイレに入ったんだ。そしたらトイレの床が抜けて

女２ 何か、くさいよ

男１ 落ちたところが下水だったんだ

女１ ちょっと、寄らないで

男１ ひどいじゃないか、助けてよ

女２ でもくさいよ

男１ うん。お風呂借りられないかな

女１ 仕方ないけどそれは後にしましょ。プレゼントを取り返すのが先

男１ えー、そんな

女１ お風呂は家に帰ってから

 突然暗くなる。

女１ え？

女２ また？　真っ暗だよ

男１ おーい、みんなどこ？

女１ 離れちゃダメよ

女２ 何にも見えないよ

男１ うわっ

女２ きゃっ

女１ みんな、大丈夫？

 明るくなる。女１しかいない。

女１ え？　またはぐれちゃったの？　これじゃ最初と一緒じゃない。もう、怪盗エックス、絶対捕まえてやるんだから

 女１退場。

 女２登場。

女２ みんなどこ？　同じことの繰り返しで全然先に進めないよ

 女１登場。

女１ 女２

女２ 女１。よかった

女１ 合言葉は？

女２ 赤手袋青手袋黄手袋

女１ へぇ、そんな合言葉だったんだ

女２ え？　まさか怪盗エックス？

女１ そう、そのまさか。教えてくれてありがとう

女２ また失敗しちゃった

女１ もう時間がない。トナカイ君を捕まえに行かなきゃ

女２ あ、待って

 女１退場。

女２ そんな。早く追いかけないと

 女２退場。

 女１登場。

女１ もうグズグズしてられない。プレゼントがどこにあるか分かればいいんだけど

 女２登場。

女２ 女１。よかった、見つけた

女１ 女２。待って、合言葉を言って

女２ えっとね、赤手袋青手袋黄手袋

女１ びたみんびたみんゆでたまご

女２ そうか、そうやって返せばいいのか

女１ え？　どういうこと？

女２ もう君には用はないよ。後はトナカイ君を捕まえるだけだ

女１ あ、怪盗エックスね

女２ 今更気付いても遅いよ。これで合言葉は役に立たない

女１ しまった

女２ 暗くなってきたし、そろそろゲームは終わりにしよう。良い子は家に帰る時間だよ

女１ 待て

 女２退場。

女１ 思い通りにはさせないわよ。見てなさい

 女１退場。

 男１登場。

男１ またはぐれちゃったよ。体はくさいし、もう散々だ。どうしよう、どこかにお風呂はないかな

 女２登場。

女２ あ、トナカイさん見つけた

男１ 女２。あ、ちょっと待って。合言葉は？

女２ 赤手袋青手袋黄手袋

男１ びたみんびたみんゆでたまご

女２ よかった、無事だったんだね

男１ うん。後は女１か

女２ 女１なら向こうで待ってるよ。早く行こう

男１ え、本当？　分かった

 女２、男１退場。男１の叫び声がする。

 女１、女２登場。

女２ ごめんね、怪盗エックスに合言葉がばれちゃった

女１ 仕方ないよ。私もうまく聞きだされたし

女２ どうしよう、これじゃ誰が本物か分からないよ

女１ うん。女２は怪盗エックス？　って聞いてもどうしようもないよね

女２ トナカイさんを捕まえに行くって言ってたよ

女１ そうか。急がなきゃ

 男１登場。

男１ ああ、みんないた

女２ トナカイさん

女１ 本物？

男１ 本物だよ。合言葉言おうか？

女１ それはもう役に立たないから

男１ そうなの？

女２ 怪盗エックスにばれちゃったの

男１ そうか、どうしよう

女１ あれ、ちょっと待って

女２ 何？

女１ トナカイさん、くさくないよ

女２ え？　あ、本当だ

男１ ちょっと待って、どういうこと？

女１ 怪盗エックスだな

女２ 本物のトナカイさんはトイレに落ちたからすごくくさいんだよ

男１ しまった、罠が裏目に出たな

女１ トナカイさんはどうしたの？

男１ 捕まえたよ。これでゲームは私の勝ちだ。ただ君たちにウロチョロされると目障りだからね、今度こそ捕まえさせてもらう

女１ またくすぐるわよ

男１ それはもうごめんだ。その手袋の力はもう分かってるんだから、気を付ければどうってことない

女２ どうしよう

男１ 君の手袋は役に立たないみたいだね

女１ 女２、逃げて

女２ え？　でも

女１ こいつは私が何とかするから、早く

女２ ダメだよ

女１ トナカイさんを助けるの

男１ 逃がさないよ。まずはお前だ

女２ 女１

女１ 早く

女２ 私は女１を、女１を守るの

 女２が男１を突き飛ばす。

男１ うわぁ

女１ え？

女２ 女１をいじめると許さないわよ

男１ ま、待て

女２ 待たないもん。お前なんかこうだ

 女２、男１を振り回し投げ飛ばす。男１退場。

女２ 女１、大丈夫？

女１ 一体どうしたの？

女２ この手袋の力みたい。急に力が湧いてきて

女１ そっか。ありがとう

女２ ううん。さぁトナカイさんを助けに行こう

女１ 急に頼もしくなったね

女２ 手袋のおかげだね

 女１、女２退場。

【６】

 男１が縄で縛られている。女１、女２登場。

女１ 見つけた

男２ あ、みんな

女２ こっちはまさか偽者じゃないよね？

女１ 確認しなきゃ

女２ くさいよ

女１ 本物だね

男１ どういうこと？

女２ さっきくさくないトナカイさんに会ったの

男１ ああ、怪盗エックスの変装か

女１ こんな縄なんか、ほら

 女１、男１の縄をほどく。

女２ うわぁ、すごい

男１ ありがとう

女１ この手袋すごく便利

女２ 後はプレゼントだけだね

女１ うん

 どこからともなく声がする。

声 ハッハッハ。諸君、見事だよ

女１ その声は怪盗だな

声 正直、君たちがここまでやるとは思わなかった

女２ なめてかかるからよ

声 これは手厳しい。さて、これでまた振り出しに戻ってしまったわけだが、もう時間もない。最後の勝負をしよう

男１ 勝負？

声 君たちが勝ったらプレゼントは返そう。私が勝ったら、トナカイ君を渡して帰ってもらいたい

男１ そんな勝手な勝負には乗らないぞ

女１ いいよ、受けよう

男１ え？

女２ いいの？

女１ このままじゃ今までの繰り返しよ。さっさと勝負をつけよう

声 いい心がけだ。こちらとしても非常に助かるよ

女２ きっとまた罠だよ

女１ 大丈夫、みんなで力を合わせればきっと何とかなる。さあ、どうやって勝負するの？

声 それは、こうだ

 突然暗くなる。

男１ まただ

女２ 女１、どこ？

女１ 大丈夫、落ち着いて

男１ 離れないで

 明るくなる。

女２ あれ？　みんないるね

女１ 本当だ。どういうこと？

男１ あれ、何か紙が落ちてる

女１ 見せて。「この中に怪盗エックスがいる。見つけられるかな？」

女２ それが勝負？

男１ この中の誰かが怪盗エックス

女２ もう合言葉も使えないし、どうしよう

女１ こうやって見てても偽者なんて分からないし

男１ 順番に質問していこうか

女２ 質問？

男１ 好きなものとか、怪盗エックスの知らないこと

女２ ああ、そうだね

女１ 無駄よ

女２ どうして？

女１ 私たち、トナカイさんのこと知らないもの

男１ でも、ほら、さっき話してたこととか

女１ 怪盗エックスは私たちの会話を陰で聞いてるの。役に立たないよ

女２ でも私と女１だったら本物かどうか分かるんじゃない

女１ それもごまかされるかもしれないし。間違ったらアウトだよ

男１ それはそうだけど、やってみなきゃ

女１ ねぇ、怪盗エックスにお願いしてみようか

女２ 何を？

女１ プレゼントを悪いことに使わないようにって

女２ 諦めるの？

女１ もしここで失敗したら怪盗エックスの思い通りじゃない。このまま逃げてもプレゼントは配れないし。いっそのこと怪盗エックスにプレゼントを配ってもらえば

男１ ダメだよ。プレゼントはじいさんが配らなきゃ

女１ そうも言ってられないでしょ。もう夜になるの。プレゼントを配らなきゃ

男１ そうか、とにかくクリスマスを迎えなきゃいけないから。子ども達が待ってるしな

女１ お願い、分かって

女２ 分かったよ、私

女１ 本当？

女２ 誰が怪盗エックスか分かった

女１ え？

男１ 誰？

女２ 女１、怪盗エックスでしょ

女１ な、何でそんなこと言うの？

女２ 女１は何があっても絶対諦めないの。すっごく負けず嫌いなんだから

 間。

女１ アッハッハ。負けたよ、完敗だ

男１ 本当に怪盗エックス？

女１ そうだよ。こちらの思惑通りうまく進めようとしたんだが、友達を信じる心には勝てないな。仕方ない、諦めよう

男１ 本当？

女２ どうしてプレゼントを盗んだの？

女１ 言っただろう。クリスマスを乗っ取るためだって

男１ それだけじゃよく分からないよ

女１ 私は毎年楽しみに待ってるんだよ。サンタさんが来るのを。でも全然やって来ない。あんな立派な煙突だってあるのに

女２ プレゼントが欲しかったの？

男１ プレゼントは子どもにあげるんだよ

女１ 分かってるよ、そんなこと。逆立ちしたって子どもには戻れない。プレゼントはもらえない。でも、そんな夢見たっていいじゃないか。そうやって考えてて、いいことを思いついた

女２ いいこと？

女１ 子どもにはなれなくても、サンタクロースにはなれるかもしれない

女２ サンタクロースに？

女１ プレゼントを貰えないなら、盗んで自分で配ればいい。私は自分の思い通りにならないことが大嫌いなんだ

男１ それで僕に協力してくれって言ったのか

女１ サンタクロースに復讐するんだ。プレゼントがなきゃサンタクロースは自分の仕事ができない。朝になってプレゼントがなかったら子どもたちはがっかりするだろ？　そこで私がプレゼントを配る。サンタクロースを困らせることもできるし、私の名声も一層上がる。子どもたちも喜ぶ。一石三鳥の作戦だ

女２ そんなのダメだよ

女１ どうして？

女２ プレゼントはサンタさんからもらうから嬉しいんだよ。盗んだものなんかもらったって嬉しくない

女１ そうか、そうだね。やっぱりプレゼントはサンタさんから貰わなきゃ。この計画は失敗だったなぁ

女２ あ、でも

女１ 何？

女２ 楽しかったよ

女１ そうか、それはよかった。さて、邪魔者は消えることにしよう。すまなかったね。メリークリスマス

 女１退場。

女２ もうプレゼント盗んじゃダメだよ

男１ そうか、怪盗エックスもプレゼントが欲しかったのか

女２ やっぱり、みんなほしいんだよ。プレゼント

男１ うん。ところで、プレゼントはどこにあるんだろう？

女２ あ、しまった。聞いてなかったね

男１ どうしよう

女２ まず女１を捜しに行きましょ

 女１、プレゼントを持って登場。

女１ お待たせ

男１ あれ？

女２ 怪盗エックスに捕まったんじゃないの？

女１ うん、捕まったんだけど、縄をほどいてプレゼントを捜してたの

男１ そうだったのか

女１ 最初は様子を見てたんだけど、女２が怪盗エックスを見破ってくれたから

女２ すごいね、女１

女１ 今のうちにプレゼントを取り返そうって思って

男１ 大成功だ

女２ これで帰れるね

女１ 女２、信じてくれてありがとう

女２ ううん、当たり前じゃない

女１ ありがとう。じゃあ帰ろうか

女２ そうだね

男１ よし、行こう

 三人退場。

【７】

 サンタの家。三人登場。

女１ はぁ、やっと帰ってこられた

女２ もうお腹ペコペコ

男１ そうだね。疲れたし、何か食べたいな

女２ 食べたい

女１ その前にお風呂入った方がいいよ

男１ そうだね。じいさんはもう起きたかな？

 男２登場。

男２ ふわぁ、よく寝た

男１ あ、じいさん

男２ おお、おはよう。ん？　そちらの方は？

男１ えっと、色々あって

女２ サンタさん？

男２ ああ、そうだよ

女２ すごい、本物だ

女１ 私、女１って言います

女２ 女２です。初めまして

男２ 初めまして。これは一体どういうことだ？

女１ 怪盗エックスにクリスマスプレゼントを盗まれちゃったの

女２ それを私たちで取り返してきたんだよ

男２ 何？　そんなことがあったのか

男１ うん、大変だったんだ

女２ 本当に大変だったんだよ

男２ そうかそうか、それはありがとう。ところでトナカイ、お前は何だかくさいな

男１ あ、それは

女２ トナカイさんはトイレに落ちたんだよ

男２ トイレに？　それは汚い。すぐ風呂に入ってきなさい

男１ はーい

 男１退場。

男２ そうか怪盗エックスか。それは大変だったな

女１ でも無事に取り返せてよかった

男２ 助かったよ。ん？　その手袋は私のだね？

女１ あ、ごめんなさい。トナカイさんが貸してくれて

男２ いや、いいんだよ。役に立ったかい？

女２ うん、すごいね、この手袋

男２ どんなことが起きた？

女１ 私はくすぐるのが上手になったり、鍵を開けたり縄をほどいたり。手先が器用になったみたい

女２ 私はすごい力が湧いてきて、怪盗エックスを突き飛ばしたの

男２ そうかそうか。それはよかったね

女１ よかったって？

男２ その手袋は誰にでも使えるわけじゃないんだよ

女２ そうなの？

男２ 青い手袋は困難を乗り越える力を。そして赤い手袋は大切なものを守る力を与えてくれる。ただし純粋で素直な心の持ち主でないと手袋は力を貸してくれない

女１ そっか。困難を乗り越える力

女２ 私、これで女１を守ったんだよ

男２ 大切な友達なんだね

女２ うん

男２ 君たちなら上手く使えるだろう。それは君たちにあげるよ

女２ え？　本当？

女１ いいの？

男２ いいとも。今日はクリスマスイブだ。プレゼントだよ

女２ やったぁ

女１ そうだ、プレゼント

女２ あ、そうだ

男２ 何だい？

女１ 私たち、サンタさんにプレゼントを持ってきたの

男２ プレゼント？　私に？

女２ 二人でクッキー焼いたんだよ。ちょっと割れてるかもしれないけど

男２ ありがとう。プレゼントをもらうなんていつ以来だろうか

女１ 喜んでもらえてよかったね

女２ うん

男２ さて、そろそろ行かなきゃならないんだが、トナカイはまだかな

 男１登場。

男１ ただいま

男２ トナカイ、準備はできてるか？

男１ もちろん。いつでも行けるよ

男２ よし、じゃあ行こうか

女２ サンタさん、お願いがあるの

男２ 何だい？

女２ あのね、怪盗エックスにもプレゼントをあげてほしいの

男１ え？

女１ 何言ってるの？　あいつはプレゼント盗んだ悪い奴だよ

女２ うん、でもね、怪盗エックスもプレゼントがほしいんだって

男２ はっはっは。そうかそうか。怪盗エックスもプレゼントがほしいのか

女２ もうプレゼントは盗んじゃダメだって言っておいたから

男２ 君は優しい子だね。そうだ、せっかくだから一緒においで

女２ え？

男２ 怪盗エックスにもプレゼントを渡しに行こうじゃないか

女２ 本当？　いいの？

男２ もちろん

女１ 私は？

男２ もちろんおいで。君たちのおかげでプレゼントを取り返せたんだ。一緒に行こう

女１ やった

女２ サンタさん、ありがとう

男２ 礼を言うのはこっちの方だよ

男１ 僕、ソリの用意をしてくるよ

 男１退場。

女２ 怪盗エックス喜ぶかな？

女１ きっと喜ぶよ

男２ プレゼントはもらうと幸せになる。あげた人はもっと幸せになる

女１ あげた人も幸せになるの？

男２ そうだよ。だから私は世界で一番幸せなんだ

女２ そうなんだ。いいな

男１ （袖から）早く行こう

男２ おっと。じゃあ行こうか

女１・２　うん

 三人退場。

 終わり。